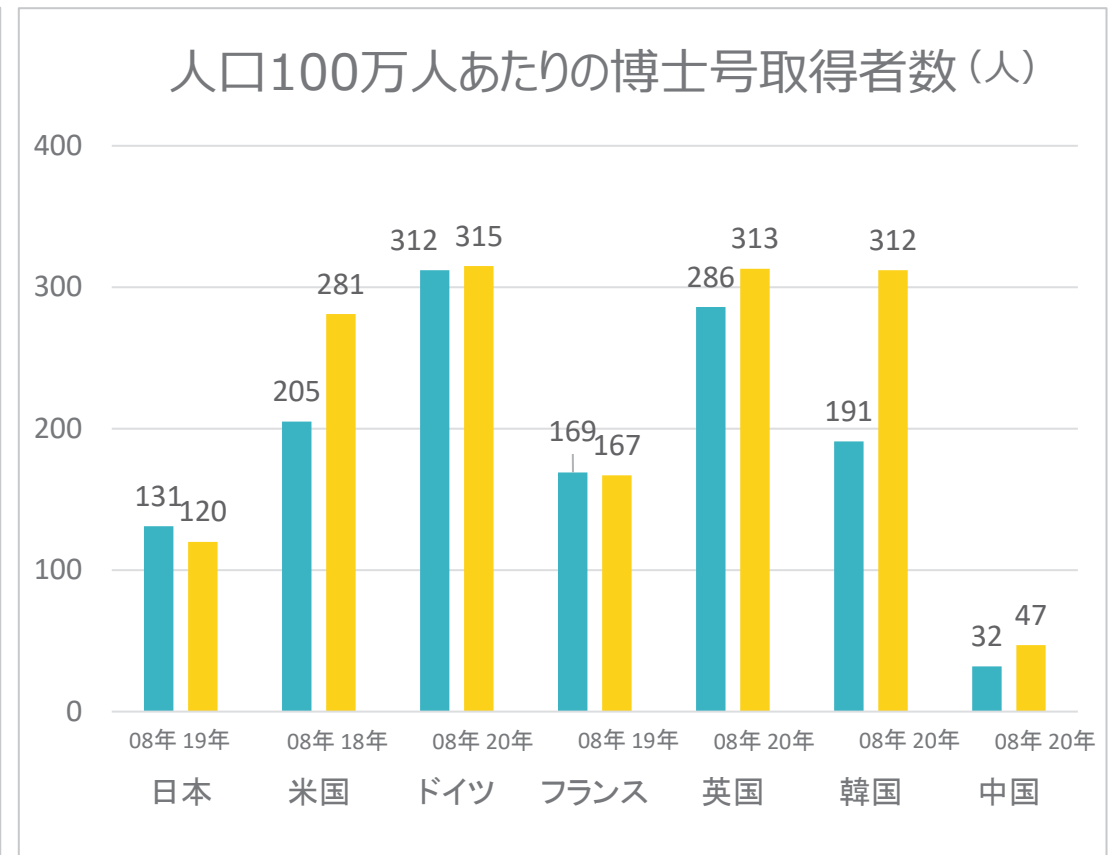
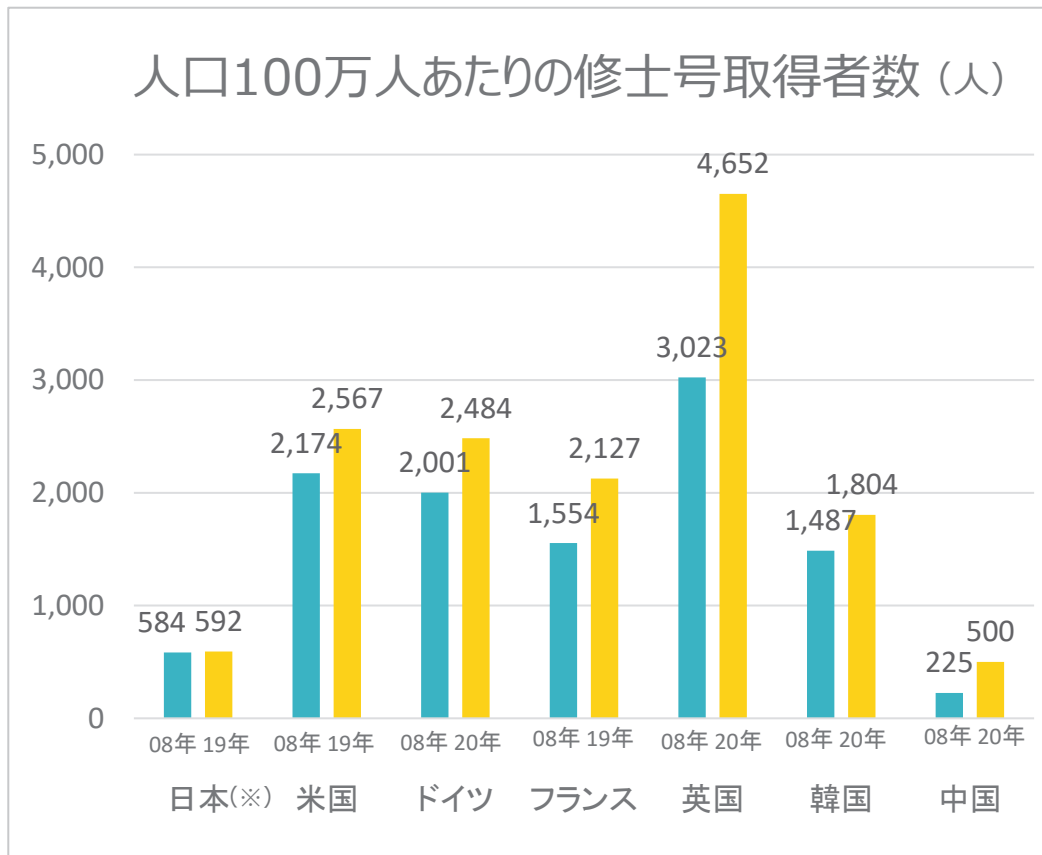


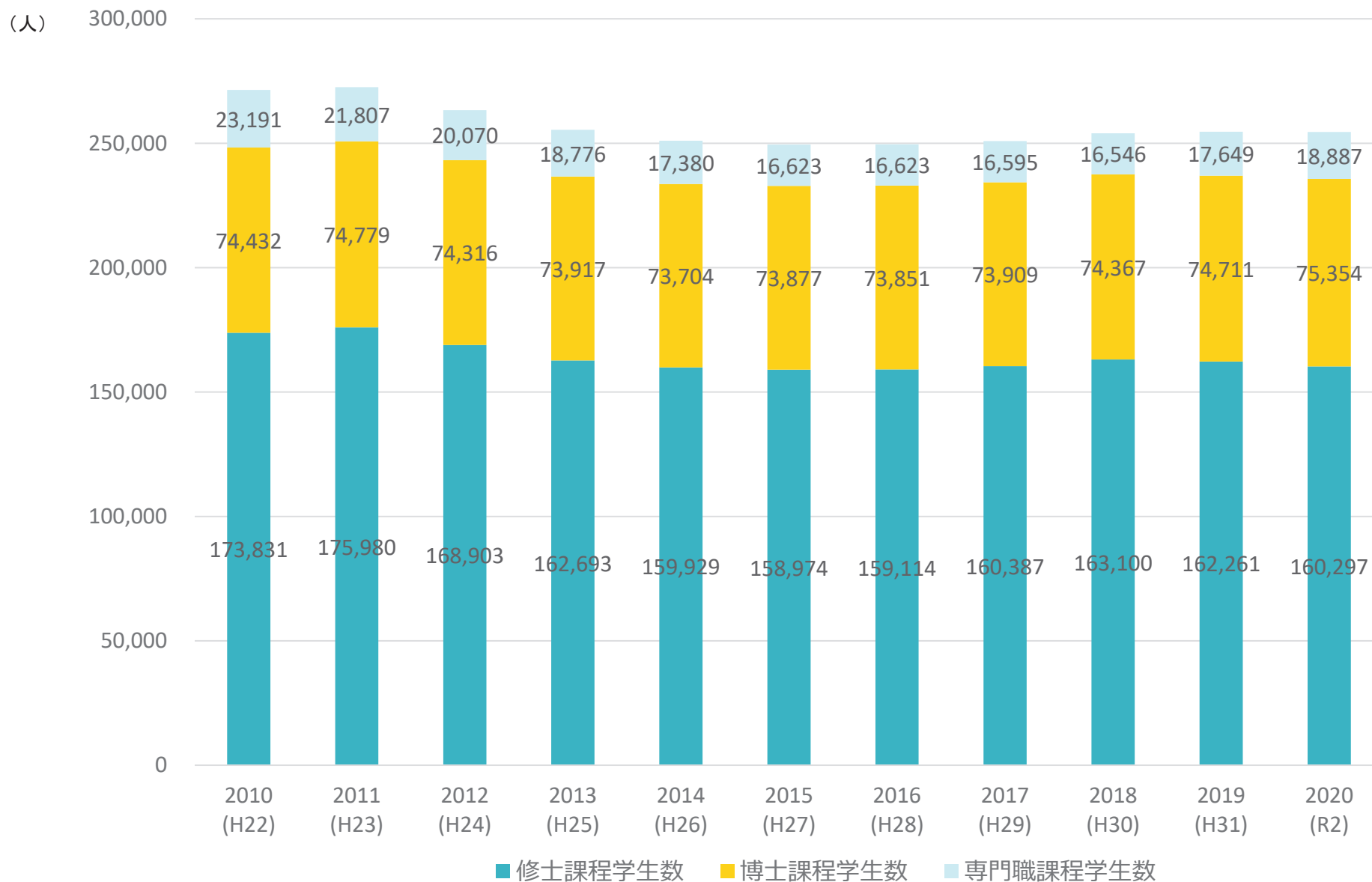
人口100万人あたりの学位取得者数の国際比較

- 主要国の修士号及び博士号取得者を人口100万人あたりで見ると、日本は他国と比べて少ない。
- 2008年度と各国最新年を比較すると、日本は横ばい、その他の国は増加。



(※) 専門職学位は含まない

修士課程・博士課程・専門職課程の学生数の推移



※ (出典) 文部科学省「学校基本調査」(平成22年度～令和2年度)より作成。

※ 修士学生数には、修士課程及び博士前期課程(医歯学、薬学(修業年限4年)、獣医学関係以外の一貫制課程の1・2年次の課程を含む。)の学生数が含まれる。

学部・大学院生の経済的な支援に関する全体像

学部 約261万人

大学院【修士課程】 約17.9万人

大学院【博士課程】 約7.5万人

特徴

- 貸与型奨学金により幅広くカバー
- 修学支援新制度を創設し、低所得世帯への手厚い対応を開始

- 貸与型奨学金により幅広くカバー
- 令和4年度において、優秀者返還免除制度の内定制導入や、授業料免除の予算を拡充

- 近年、若手研究者支援（研究力強化対応）の観点から、給付型の支援を充実

貸与型奨学金

貸与型奨学金

R4事業規模：8,673億円、118万人

※高等専門学校、専門学校、通信教育、海外留学を含む

- 有利子奨学金【世帯年収～約1,100万】
最大：144万/年(月12万)
- 無利子奨学金【世帯年収～約750万】
最大：私学自宅外77万/年
(月6.4万)

貸与型奨学金

- 有利子奨学金【本人年収～約530万】
最大：180万/年(月15万)
R4事業規模：45億円 **約5,000人**

- 無利子奨学金【本人年収～約290万】
最大：106万/年(月8.8万)
R4事業規模：360億円 **約43,000人**

貸与型奨学金

- 有利子奨学金【本人年収～約710万】
最大：180万/年(月15万)
R4事業規模：4億円 **約500人**

- 無利子奨学金【本人年収～約340万】
最大：146万/年(月12.2万)
R4事業規模：65億円 **約5,000人**

優秀者返還免除制度

- ※貸与終了者のうち3割が全免若しくは半免
- R3年度 70億円 6,370人（実績）

優秀者返還免除制度

- ※貸与終了者のうち45%が全免若しくは半免
- R3年度 21億円 827人（実績）

授業料支援等

修学支援新制度

R4予算 5,196億円、59万人

※高等専門学校、専門学校、通信教育を含む

【年収～380万円】

授業料等減免

最大：私学70万円/年

給付型奨学金

最大：私学自宅外91万円/年

※消費税率10%への引上げにより財源を確保し、令和2年4月より実施。

各大学の授業料免除制度

(国立) R4 予算 101億円 約19,000人

※大学院分予算額を収容定員で案分人数については、全額免除換算

(私立) R4 予算 7億円 約4,000人

※大学院分予算額を学生数で案分人数は補助実績に基づき試算

各大学の授業料免除制度

(国立) R4 予算 49億円 約9,000人

※大学院分予算額を収容定員で案分人数は全額免除換算

(私立) R4 予算 2億円 約1,000人

※大学院分予算額を学生数で案分人数は補助実績に基づき試算

若手研究者支援

<若手研究者支援>

- 既に年180万円以上の支援を受給 約7,500人
 - ・特別研究員(DC) (研究奨励金240万円を支援+科研費申請可能)
R4予算 104億円 等
- 新たな博士後期課程学生支援 約8,800人
 - ・次世代研究者挑戦的研究プログラム
(生活費相当額180万円以上+研究費を支援)
R3補正 400億円 等